

繪が重くなるおそれあり四 其繪の大きさによれどワットマン八切なら二日か三日通ふたら出来るならん、時間にして六時間程、五 には答へがたし■一 繪畫製作の上に偶然の効果を頼むは愚と云ふ、然らば大家は何故に名作許り出来ざるか二 研究の痕なき作と有る畫との鑑別は如何にしてなすか三 懸腕にて輪廓をとる時は手が震へて困る、練習すれば小部分迄描くもが出来得るや(水彩入道)

○一 繪の製作は大工が家を作り左官が壁を塗るやうな者でなく、必然かく成るべしと思ひても成らぬことあり、これ大家にも劣作ある所以、然し素養なきものが冒險的に偶々成効したのは、恰も投機と同じく眞面目なる繪畫の上に應用すべきものでない、要するに偶然といふ字を狭義に解せば何事も偶然ならぬはなし二 畫面に注意の届いてゐると否とによつて見るべく、これも程度問題で經驗によつて批判すべきもの三 小部分は勿論大部分でも輪廓をとるに懸腕にてなすに及ばず■今年の文部省展覽會にての授賞畫の

大きを知りたし(綠葉)○一々擧げがたし『おもひて』の如きは六尺に一丈もあらん、水彩畫にはワットマン四ツ切位ひのもありたり■一 『みづゑ』の口繪『モデル』『少女』『朝なき』『京都郊外』『深山の秋』等は模寫してよろしきや二 右等の繪に用ひられし色彩の順序は如何三 研究所別科土曜日(日本橋和輝生)の記名料授業料は何程にて誰でも入學し得るにや四 『みづゑ』に『スタデー』と題する樹木の繪のありし號は何號なりや、また殘本ありや五 ローカルカラー。プラツシ。タツチ。エフトとは何の事か(日本橋和輝生)○一 『少女』は印刷の工合にて出来なるもの混れり、他は差支なからん二 製版後、色に幾分の相違を生ずべく説明しがたし三 土曜日にあらず日曜日なり記名料壹圓、所費壹圓月次會々費拾錢何人でも入學を許す四 第二十六にして殘本あり五 ローカルカラーとは地方色といふことで其土地又は其物固有の色調感情などを云ふ、プラツシは前に答あり、タツチは重に繪の締りに用ひる、一番暗い處などに

強い色がつけてある場合など、エフエクトは感じ結果など種々譯語あり、六 は答ふる限にあらず■洋畫講義録の發行所及川端畫學校の所在を知りたし(加藤松之助)○前者は麻布區飯倉町四丁目、後者は小石川區上富坂町■一 『みづゑ』直接讀者ですが誌上にて繪の質問をなし得べきや二 『讀者の領分』へ投書し得るか三 用紙はハガキにて可なりや(新讀者)○一 二、三、何れも差支なし

讀者の領分

■スケツチ交換を望む。水彩畫持ち合せあり美術雜誌と交換したし。本年の終刊に臨んで幾多の利益と幾多の新知識とを習得したるを深謝すると共に今後益々向上發展せられん事を期して止まざるもの、讀者諸君幸に健全なれ(松本市宮淵忠地英雄)■今秋文部省展覽會諸先生の出品畫は原色版となして順次掲載叶ふまじきや(イナカ者)■肉筆水彩畫葉書交換希望、返葉迅速(尾道市坊地山路修次郎)■洋畫講義録全部譲る、次に『みづゑ』四

十號より四十五迄六部僕が出すから太田三郎氏著『スケッチ畫法』と交換を乞ふ、次に繪ハガキ交換希望（長野縣下高井郡往郷村三五山田直一郎）■『女性と趣味』定價半額にて譲受けたし着本次第送金、又は吉田博氏『寫生旅行』『光風』四ノ三と交換を望む（嶋井浪花上五、天井）■『孤雁挿繪集』、『水彩畫譜』、『みづゑ』御入用の方に大廉價讓與す（下關市東南部町藤井直二郎）■日本橋MGNMT様御返葉を乞ふ、次に皆様方よ不相變肉筆繪葉書を御めぐみ下さい（米澤市免許町下一三〇八佐藤周子）■小形の油繪箱（文房堂製）安價に譲る直接照會を乞ふ（鳥取市茶町森本利三）■『方寸』本年度分肉筆水彩繪葉書御送りの方に呈す、但し粗なるものには返送せず、一葉一冊のこと、引續き肉筆水彩繪葉書交換を乞ふ（尾道市久保町山路邦太郎）■『みづゑ』十一號より三十號迄及び六號十二號内外にて至急譲りたし（横濱市南太田町二二三二白井不朽生）■業務多忙の爲め新に購入せし十六切スケッチ箱（二圓三十錢の品）不

用につき廉價に譲りたし、頗る新しきものなり（札幌北四條西十二丁目小島義男）■ワットマン十六切スケッチ箱、筆洗、水筒、畫架、三脚、畫囊、油繪スケッチ箱、全繪具、筆、安價に譲る（愛媛縣宇摩郡寒川村妻島律太）■相田寅彦氏の「森」が文部省美術展覽會に褒状を受られたと聞き、その會友たる自分は何だか喜しく、感じた『みづゑ』五十六號の挿繪を一寸、「町のスケッチ」は外國の市街かと思つたらスキン先生の繪には驚いた、高い空廣い海小生等には何とも言へない、大下師の海岸を原色版にせられたらと思つた、鎌倉スケッチは面白い、時折こんなのを載せていたゞきたい（神戸、津川）■『みづゑ』第一より第五十迄（折目なし）譲りたしといふ人あり、望の方は買受價格を記し往復ハガキを以て本會へ照會されたし（春鳥會）

近事

△日本水彩畫會研究所有志數名は、十月三十日より秋期寫生旅行を武州御嶽山上

に試み、數日滞在多數の製作を得て歸京したり。

△太平洋畫會研究所に於ても、十一月二十一日より二日間相模川上流に向つて寫生旅行をなせり。

紹介

◎日曜新聞 近來個人の蔭事をあげき、又は些々たる事實を誇張して好奇心を挑發する惡徳週刊雜誌多き中に、これはまた、床しくも家庭、社交、婦人、兒童、科學、技術、園藝、探檢、寫眞、文藝、歌舞、音曲、發明、流行等の多方面にわたりにて、趣味と實益を讀者に頒たんとする態度は嬉しとも嬉し。發行所は東京市京橋區南鍋町二丁目日曜新聞社にして、一部の定價金四錢、十一月二十八日その第六號を發行せり。

◎山岳 四年第三號 例によつて美はしき寫眞版を卷頭に挿み、記事には野尻氏の白峰北岳登山記を始めとして何れも面白し（一部三十五錢、東京神田區表神保町東京堂發賣）